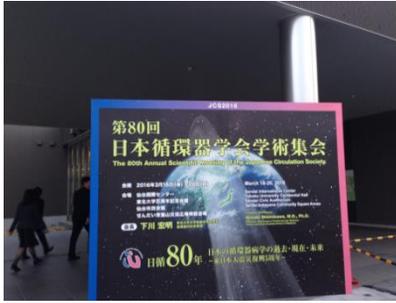


## 第80回 日本循環器学会

日本の循環器病学の過去・現在・未来 – 東日本大震災復興5周年 –



第80回目の日本循環器学会

2016年3月18日～20日に仙台国際センターにおいて第80回日本循環器学会学術集会在開催された。今回の集会是80回目の節目であることから、プログラム内容に日本の循環器病学のこれまで80年の歩みと今後20年の展望に関する企画が多く盛り込まれた集会となった。また、開催地が仙台であることもあり、東日本大震災復興5周年として、東北地域の災害医療への貢献や復興に向けた活動に関する発表や展示なども催された。

会場は、メイン会場である仙台国際センターの他、東北大学百周年記念会館、仙台市民会館などで、3,000を超える研究発表やシンポジウム、ワークショップなどが催され、内外からの参加者は1万人を超える盛況となった。

会場の仙台国際センター



(www.ja.wikipedia.org)

シンポジウムの風景



(第80回日本循環器学会学術集会ホームページより)

今回の学会長である東北大学医学部下川宏明教授は、プレス取材に対し「超高齢社会の進展に伴い、循環器疾患はこれからも確実に増えていきます。このような時代に医療に求められているのは、患者さんの身体にできるだけ負担のかからない低侵襲性・非侵襲性の医療です(\*)。」とも述べており、時代と共に非侵襲医療への期待も高まっていることが感じられた。

(\*)3月12日(土) 日経新聞朝刊(全国版)

### 「非侵襲での冠動脈疾患の検知に対し、MCGは価値ある貢献をもたらす可能性」

MCG解析の流れ図



そのような非侵襲医療への期待が高まる中、今回、MCGに関する日本の研究が愛知医科大学より発表(\*)された。発表の題名は「Noninvasive Detection of Coronary Atherosclerosis by Multifunction Cardiogram」(MCGによる冠動脈硬化症の非侵襲的検知)である。研究では冠動脈疾患が疑われる84名の被検者に対して冠

動脈CT検査とMCGを施行し、その結果を比較するものであり、研究の結果MCGは冠動脈CT検査での冠動脈疾患の重篤度に相関するものであると発表された。

また発表は「非侵襲的な手法であるMCGは冠動脈疾患の検知に価値ある貢献をもたらす可能性を示した」と結論付けられており、今後の冠動脈疾患の非侵襲検知に関するMCGへの期待が込められた内容であった。

MCGLレポート



(\*)ポスター発表